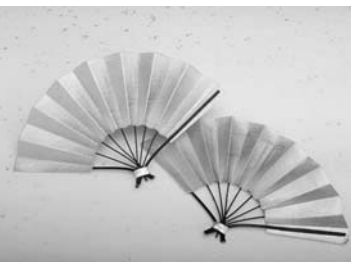


# 年頭の「あいさつ」

廿日市市長 眞野 勝弘



市民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

また、日頃から、市政の推進に格別のご理解とご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年、56年の歳月を経て、オリンピック・パラリンピックが再び東京で開催されることと決定しました。

思い起こしますと、前回大会は、我が国が高度成長を遂げる中、日本全体が活気に包まれていた時代に開催され、戦後からの復興を世界中にアピールする大会でございました。

また、大会の10日前には、東海道新幹線が開業するなど、高速移動の始まりの年でもありました。

そして何より、オリンピックの感動が、私たち国民に夢と希

望を与えてくれました。

現在、わが国では東日本大震災の復興が進められており、7年後の東京オリンピック・パラリンピック開催時には、立ち直った被災地の姿を世界に示し、全国で笑顔があふれるためにも、国民全体が一丸となることが大切であると思えます。

さらに、オリンピックは「平和の祭典」であることから、多くの国や地域が参加することによって、スポーツを通じた交流がより一層深まり、「真の世界平和」につながっていくことを願っています。

次に、昨年厚生労働省がまとめた「生命表」によりますと、中国5県の市区町村別平均寿命（平成22年時点、121市区町村）で、本市の男性が80・9歳で第1位、女性が87・5歳で第9位と男女とも上位に入りましたことを、大変うれしく思いま

す。

今後は、平均寿命の延伸はもとより、心身ともに健康で暮らすことに重点を置いた「健康寿命」の延伸に力を注ぎたいと考えており、今年1月26日(日)にJ A広島総合病院と共催する市民公開講座で、私の思いも申し上げることにしていますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

また、昨年1年間の本市への総観光客数は約700万人となり、わが国を代表する観光地「宮島」には、一昨年に引き続き、およそ400万人の来島者をお迎えしました。

現在、本市では、自らが住む地域を理解し、その価値と魅力を伝えることにより、国内外から多くの皆さまをお迎えするたため、「観光振興基本計画」（平成27～36年度の10年間）の策定作業を行っています。

この計画では、10年後にどのような観光地でありたいのかを十分検討し、廿日市ならではの計画にしたいと考えていますが、それを実現させるためには、市民の皆さまや企業、各種団体、行政などの連携・協力が必要不可欠です。

市制施行25周年を迎えた「はつかいち」が「笑顔と活力に満ちた元気なまち」、そして多くの皆さまに「何度でも訪れたい」と思っていただけ「まち」として、これからも発展していきたい、市民の皆さまとともに新たな時代を築いていきたいと考えていますので、皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、今年1年が皆さまにとりまして、健やかで幸多き年となりますようお願い申し上げます。新年のあいさついたします。



市制施行25周年を迎えた「はつかいち」が

「笑顔と活力に満ちた元気なまち」、

そして、多くの皆さまに

「何度でも訪れたいと思っただけのまち」として、

市民の皆さまとともに、

新たな時代を築いていきたいと考えています。